

◆特集◆ 新たな展開を迎える道の駅ふたつ



道の駅ふたつ代表者のお2人
(左から高橋剛代表取締役社長、安井清司駅長支配人)

令和3年7月で3周年を迎えた、道の駅ふたついきみまちの里（以下、「道の駅ふたつ」）を訪問し、高橋剛代表取締役社長、安井清司駅長支配人よりオープン当初からのお話を伺いました。

道の駅ふたつの現況

問 道の駅ふたつの現況について教えてください。

答 当初の計画では、年間の来場者を48万人としていましたが、初年度の平成30年度に67万人、令和元年度には111万人を超え、コロナ禍にあった2年度で85万人、今年度は8月末現在約48万人で、累計313万人の方々に御利用いただいています。旧道の駅の1年間の平均来場者が26万人であったことを考えれば、想定以上の来場者でにぎわっています。

オープン当初、非常に多くの方々が来場し、合併浄化槽の不具合による問題もありましたが、今は問題なく御利用いただけます。駅のレイアウトは産直・お土産品、レストラン、キッズコーナー、軽食コーナー、歴史民俗コーナーがあり、隣接する川の駅にはドッグラン、3×3バスケットボールコート、散策路が整備され、カヌー体験もできます。

最近ではこの場所を中間施設として3世代の家族が集まったり、ドッグランを利用される方も増えてきています。

売上もほぼ順調で初年度が2億9000万円、令和元年度が3億8000万円、コロナの影響があった令和2年度は3億1000万円で、当初の見込を達成していると思われま

道の駅ふたつのこれから

問 令和5年度に日本海沿岸東北自動車道のインターチェンジが道の駅ふたつの目の前に完成しますが、これに向けたビジョンは何かありますか。

答 一つは、道の駅は2つのトンネルの間に位置することになるので、トンネルの手に道の駅の案内看板を設置してもらえよう国交省に要望していきたいです。

また、レストランは100席（コロナの影響で、現在は60席）を設けています。地元食材を使ったメニューを増やすなど、

お客様のニーズに伝えていきたいと思えます。

ほかに、厨房設備も改修を考えていますし、さらにレストランの脇のテラスをもっと使い勝手があるように入出口を改修したいです。そのほか、200人を超える産直物販コーナーの納入者が利用するバックヤードの整備がぜひとも必要ですし、長距離トラックやバスの運転手、添乗員が休憩できる設備があればますます多くの方々に御利用いただけるものと思います。

インタビューを終えて

新型コロナウイルス感染症の影響にも負けず、新たなインターチェンジ開通後も特色ある道の駅として、さらに来場者が増えて発展されることを祈念いたします。

○道の駅ふたつ営業時間

(24時間営業)

トイレ、授乳室、情報・休憩コーナー、EV充電施設（駐車場内）

(午前9時～午後6時)

総合案内、多目的ホール、展望デッキ、屋根付イベント広場、産直物販コーナー、軽食コーナー、歴史・民俗資料コーナー、キッズコーナー（屋内遊具）

(午前11時～午後6時)

レストラン
ラストオーダー 午後5時

取材…伊藤洋文 安井和則